

無縫塔の杉苔修復

昨年10月、イノシシに荒らされてしまった無縫塔の杉苔について。長らく残った苔が広がらないかと様子を見ていたのですが、いつまでも荒れた状態にしておく訳にもいかず、庭師さんにお願ひしていたところ、天候の都合でお彼岸後に植え直しが終了しました。

今回は庭師さんの提案で墓地の周囲に柵を設置し、イノシシなどの侵入を防いでいきますので、今後は再び荒らされることは無いと思います。

なお墓地入口に新たにしおり戸が出来ました。お墓参りに来られた方は、お帰りの際は必ず扉を閉め、忘れずに上部の輪を柱にはめて固定して下さい。ご協力よろしくお願ひします。



實相寺 花園會報

令和三年
十月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第150号

お寺の掲示板

中秋の名月は十五夜の満月ですが、古来旧曆九月十三日の月も名月とされてきました。今年
は10月18日が十三夜になります。

脇坂義堂は江戸時代の心学者ですが、「満ちれば欠ける」はものの道理です。一方「成長戦略」を声高く叫ぶ政治家や経済学者の姿には何となく胡散臭さを感じてしまいますが、それは彼等が正しく物事を見ているとは、とても思えないからなのかも知れません。

ものはみな

みればかける

常にただ

たらぬほどこそ

人もやすけれ

脇坂義堂

お釈迦さまの伝記・仏伝について⑦
 しばらくお休みしていましたが、花園大学佐々木閑先生の動画を参考にした仏伝の解説を再開したいと思います。
 ここであらためて、なぜ今年私が仏伝を取り上げたかという、勿論大前提はネットで佐々木先生の講義を拝見することが出来るようになったからですが、もう一つの理由は皆様に元々の仏教の姿をお伝えしたいからです。
 今、日本の仏教は危機に瀕しているといつて過言ではありませんが、長い年月仏教が受け継がれてきたのは、地域や時代で様々に変容しながらも、その本質においては変わらなかつたからだと思います。逆に現代の危機は、我々はその本質を見失いつつあるのではないか、というのが私の意見で、今後

たとえ社会が大きく変化したとしても、本質的に仏教的なものは生き残るのでは無いかと考えています。どうぞ宜しくお付き合い下さい。
 さてお釈迦様は、かつて一緒に修行した五人の比丘のところに行き、初めて教えを説きました。その時、最初に説いたのは「中道」の教えで、これは仏教を学ぶための心構えです。
 お釈迦様はまず「下劣で欲望のままに生きている人には近づくな」と説きました。ひと言でいえば「欲深い人」には近づくなということ、勿論自分自身もそうであつてはなりません。次に「苦しさに執着する人には近づくな」と説きました。この「苦しさ」とは辛いことを我慢することで、厳しいことがよい修行だとは考えるなという

ことです。これら二つはよく楽器の弦に喩えられ、弛みすぎても、張りすぎても、良い音はしないと説かれます。
 そして、その中道の具体的な中身として「正見」「正思惟」「正語」「正業」「正命」「正精進」「正念」「正定」の八聖(正道)が説かれました。「正見」とは全ては因縁に依って生滅しているという仏教的なモノの見方です。「正思惟」は「正見」に基づいて合理的に考えるということ。「正語」とは自分の心を正すためにも正しい言葉を使い、「正業」は正しい行いをしなければ成らないということです。また「正命」とは身の立て方であり、どうやって生活するかということ、生きる術を間違つてしまうと、全てが崩れてしまいます。「正精進」は正しい努力です。

仏教では苦行を否定して瞑想と釈迦の教えを学ぶという二つを二本柱としました。「正念」とは昨今流行のマインドフルネスの元でもあります、常に自身の行為に対する自覚と自制を念頭に置くことです。そして「正定」とは心を正しく集中することです。
 これら八正道には、私達が日々の苦しみから逃れるためにはどの様な姿勢で生活するべきかが説かれています。そこに「何があつてもやれ」とか「死ぬ気でやれ」というような根性主義の言葉は一つもありません。つまり八正道は「強さ」ではなくて「正しさ」こそが仏道修行の本質であることを表して、その原理は「中道」なのです。

